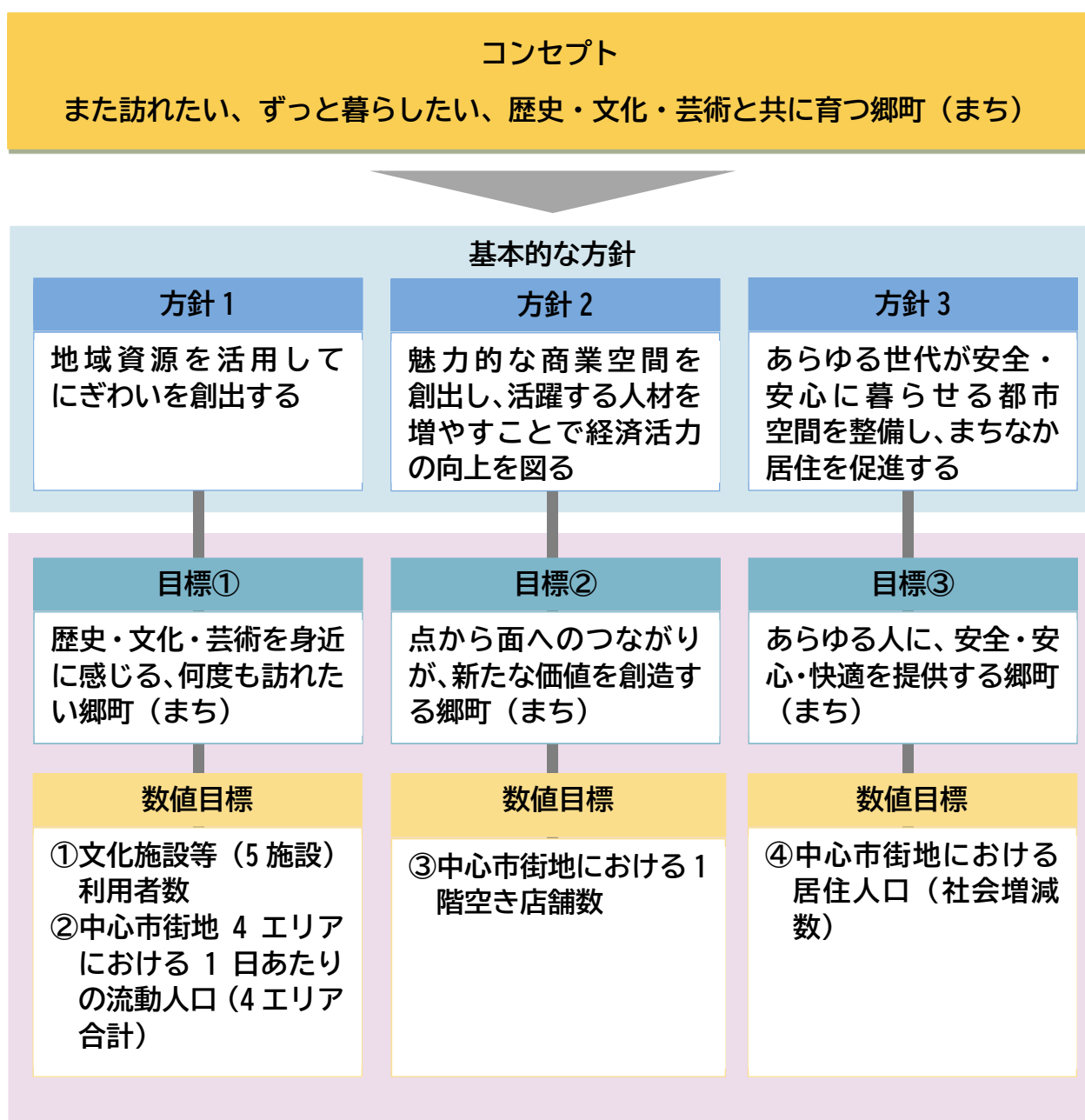


### 3. 中心市街地の活性化の目標

#### [1] 中心市街地活性化の目標

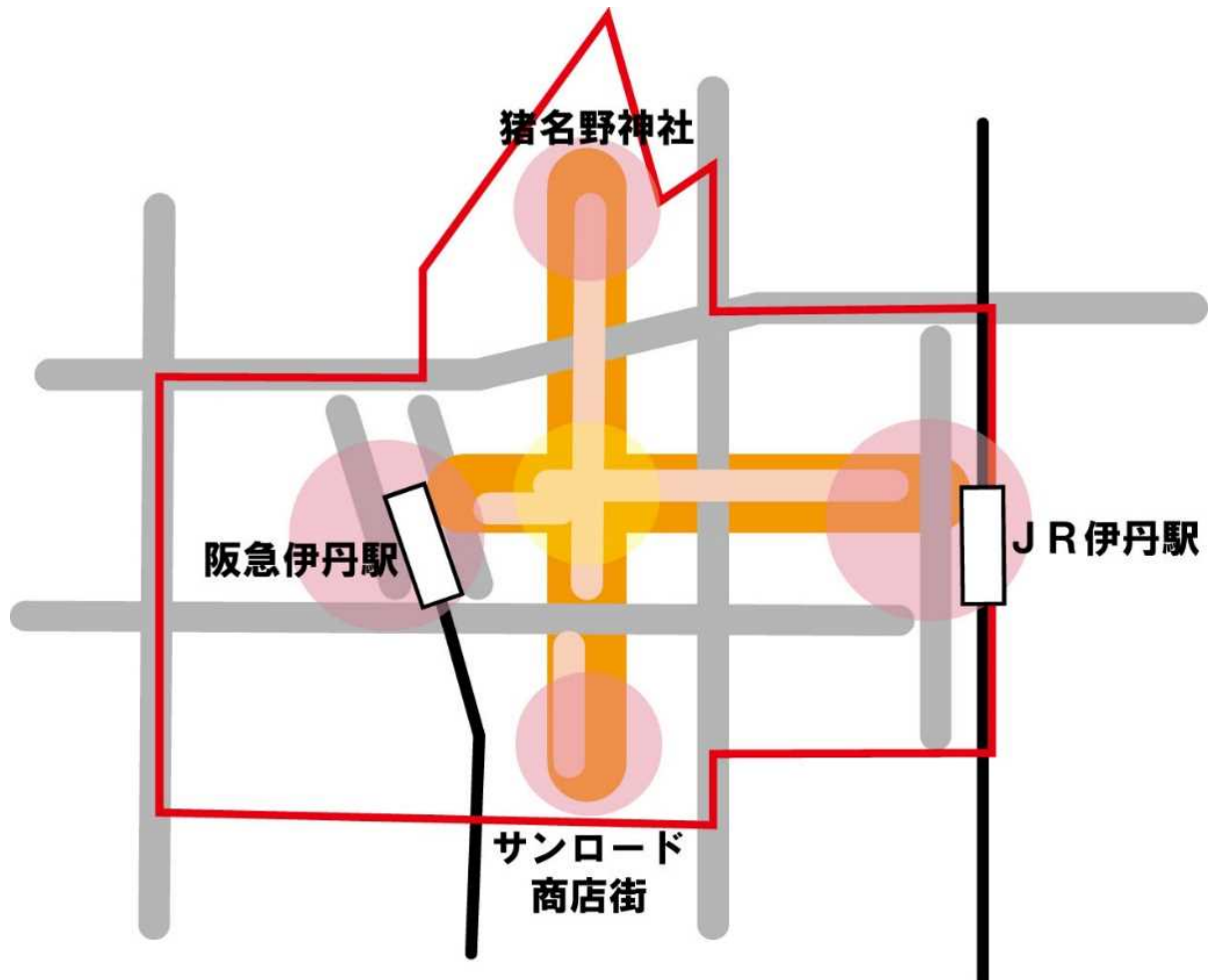
本市の中心市街地を活性化するためには、いままで整備されてきた都市機能や、イベント、事業等の取り組みを活かし、恒常的・継続的な中心市街地のにぎわいを充実・強化していくことと共に、まちの新たな顔である「市立伊丹ミュージアム」の誕生という機会を活かし、より一層官民が連携して中心市街地の活性化に取り組むことが必要である。また、未だ先行きが不透明な中ではあるが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた活性化策を講じる必要がある。

そこで、目指すべき伊丹市の中心市街地の将来イメージ（都市像）=中心市街地活性化基本計画のコンセプトを、以下のように「また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町（まち）」とし、活性化が持続できる中心市街地を目指すこととする。



### 伊丹市中心市街地の都市構造図

中心市街地は東西南北の4つの商業核「4極」、それらを相互に結ぶ東―西、南―北の2本の歩行者動線を「2軸」とした「4極2軸」を基本的な構成とし、阪急伊丹駅周辺地域、JR伊丹駅周辺地域、宮ノ前地区、サンロード商店街地区の4極相互の連携と2軸の動線の確保を活かし、活力ある商業・業務ゾーンの形成を目指しています。



凡 例



4極



2軸

|             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| <b>目標 1</b> | <b>歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町（まち）</b> |
|-------------|--------------------------------------|

本計画では、令和 2 年度に認定された日本遺産『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』を活用し、また、新たに開館する歴史・文化・芸術の発信拠点である「市立伊丹ミュージアム」を中心とした観光促進、にぎわい創出を目指す。

■主な関連事業

- ①まちなか DX 推進事業
- ②市立伊丹ミュージアム連携事業
- ③日本遺産連携事業
- ④体験型周遊イベント事業      など

|             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| <b>目標 2</b> | <b>点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町（まち）</b> |
|-------------|-------------------------------------|

本計画では、中心市街地に居住する人、また市外から中心市街地を訪れる人にとって魅力のある店舗を誘致する仕掛け作りを行うなど、官民が連携してエリアごとの価値を向上させる取り組みを強化するとともに、新規創業に向けた環境を整えることで、中心市街地の稼ぐ力を伸ばし、消費を確保する。

■主な関連事業

- ⑤商店街等活性化事業
- ⑥エリアマネジメント促進事業
- ⑦創業支援事業
- ⑧空き店舗情報バンク・マッチング事業      など

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| <b>目標 3</b> | <b>あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町（まち）</b> |
|-------------|-----------------------------------|

本計画では、前計画で進めてきた「安全・安心な都市空間の整備」を継続させ、さらに各施策において「子育て世代」のニーズを満たす事業を強化することで、定住人口の増加を目指す。

■主な関連事業

- ⑨公衆トイレ改修事業
- ⑩保育所誘致・開設事業
- ⑪市道中央天津線他電線共同溝整備事業
- ⑫地域子育て支援拠点事業      など

## [2] 計画期間の考え方

計画期間は、令和 4 年度（令和 4 年 4 月）から事業の効果が現れると見込まれる令和 8 年度（令和 9 年 3 月）の 5 年とし、その最終年度である令和 8 年度を目標年次とする。

## [3] 目標指標の設定の考え方

中心市街地活性化の 3 つの目標のもと、下記に示すとおり目標ごとに数値目標を掲げる。

### (1) 目標 1「歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)」実現に向けた指標の考え方

#### 目標指標① 文化施設等（5 施設）利用者数

前計画では、「文化施設等（8 施設）利用者数」（工芸センター、柿衛文庫、美術館、郷町館、東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館）を目標指標として設定している。

本計画では、工芸センター、柿衛文庫、美術館、郷町館の 4 施設に、中心市街地域外から 1 施設(博物館)が加わり、機能を集約した「市立伊丹ミュージアム」が令和 4 年 4 月から開館することから、市立伊丹ミュージアムに加え、東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館を加えた、計 5 施設の利用者数とする。

また、目標指標の設定にあたり、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）の影響を大きく受けているため、基準値を「令和元年度数値」とする。なお、計画最終年度の令和 8 年度における推計値についても、令和 2 年度以降、感染症の影響で利用者数が減少し、そこから徐々に回復するが、結果横ばいとなることを見込み、基準値と同値を想定している。

| 目標指標                 | 基準値                   |                             | 目標値               |
|----------------------|-----------------------|-----------------------------|-------------------|
| 文化施設等(5 施設※)<br>利用者数 | 875,344 人<br>(R1 実績※) | 51,256 人÷<br>51,000 人増<br>→ | 926,600 人<br>(R8) |

※5 施設：市立伊丹ミュージアム、東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館

※R1 実績：文化 3 館(東りいたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール)、みやのまえ文化の郷(実人数補正：工芸センター、柿衛文庫、美術館、伊丹郷町館)、図書館、博物館

#### 1) 具体的な目標値設定の考え方

##### ●文化施設等（5 施設）利用者数に関する事業

令和 2 年度に認定された日本遺産『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』を活用した「日本遺産連携事業」をはじめ、令和 4 年 4 月開館予定の「市立伊丹ミュージアム」を核とした歴史・文化・芸術を活用した「市立伊丹ミュージアム連携事業」、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した、文化施設や歴史資源、商店街を歩いて巡る「体験型周遊イベント事業」、「文化施設連携事業」など、主にソフト事業を中心とした事業を展開する。

【施設利用者数の推計】

(単位:人)

R3～R8 は将来推計

|                                                                                      | R1<br>(基準値) | R2      | R3      | R4      | R5      | R6      | R7      | R8      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| ①図書館                                                                                 | 404,631     | 264,357 | 320,000 | 340,000 | 350,000 | 360,000 | 370,000 | 380,000 |
| ②R1～R3:文化3館+博物館+みやのまえ文化の郷(実人数に補正)<br>→A+B+C+E+G<br>R4～R8:文化3館+市立伊丹ミュージアム<br>→A+B+C+D | 470,713     | 172,608 | 197,379 | 477,300 | 493,400 | 510,300 | 528,000 | 546,600 |
| A.東リ いたみホール                                                                          | 194,430     | 67,379  | 95,473  | 198,318 | 202,284 | 206,329 | 210,455 | 214,664 |
| B.アイホール                                                                              | 39,549      | 21,716  | 32,581  | 40,339  | 41,145  | 41,967  | 42,806  | 43,662  |
| C.伊丹アイフォニックホール                                                                       | 105,570     | 43,790  | 59,870  | 107,681 | 109,834 | 112,030 | 114,270 | 116,555 |
| D.市立伊丹ミュージアム                                                                         | -           | -       | -       | 130,993 | 140,162 | 149,973 | 160,471 | 171,703 |
| E.伊丹市立博物館                                                                            | 32,162      | 16,592  | 9,455   | -       | -       | -       | -       | -       |
| F.みやのまえ文化の郷(実人数に補正)※                                                                 | 99,002      | 23,131  | -       | -       | -       | -       | -       | -       |
| G.みやのまえ文化の郷(各館で計測しているため重複を含む)                                                        | 158,483     | 35,389  | -       | -       | -       | -       | -       | -       |
| 合 計 (①+②)                                                                            | 875,344     | 436,965 | 517,379 | 817,300 | 843,400 | 870,300 | 898,000 | 926,600 |

※補正(F)の計算根拠:美術館・工芸センター・郷町館・柿衛文庫の合計人数(G)から、そこに含まれる重複想定人数(美術館・工芸センター・柿衛文庫の展覧会参加人数)を差引き、さらに同展覧会参加人数の平均を加えた)

## 2)事業による効果の算定

「市立伊丹ミュージアム」の利用者数は、改修前の既存施設と「博物館」の過去の利用実績及び令和4年度の事業計画から予測し、令和4年度の目標人数を算出したもの。令和5年度からは、毎年約7%の増加を目標としている。

文化3館(東リ いたみホール、伊丹アイフォニックホール、アイホール)の利用者数は、令和3年度の利用者数を令和2年6月～令和3年5月実績値と同程度であると見込み、18.8万人と設定した。そこから、利用者の安全・安心を第一優先にしつつ、徐々に利用者数の回復を図り、令和4年度については、令和元年度の利用者数から約3%増を見込み、令和5年度以降も、前年度比約3%利用者が増加するものとして各年度の目標値を算出している。

図書館の利用者数は、令和3年度の4～5月の来館者数がコロナ前(令和元年度)の同時期と比べて75%程度であることを考慮し、令和3年度の数値を32万人と推計した。そこから、利用者の安全・安心を第一優先にしつつ、令和4年度については、前年度比約6%増。令和5年度以降は、前年度比約3%ずつ利用者が増加するものとして各年度の目標値を算出している。

○目標達成に向けた事業名・算定

| 事業名・算定の考え方                                                                                                                                                                          | 効果（R4～R8） |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| ①「市立伊丹ミュージアム連携事業」等、市立伊丹ミュージアムの事業展開による利用者増                                                                                                                                           | 40,500 人増 |
| ②各文化施設間の更なる連携、文化施設を活用した賑わい創出等による利用者増                                                                                                                                                | 10,740 人増 |
| ア：文化施設連携事業によるリピーターを含む利用者増<br>○鑑賞 de 寄っトク！itami<br>→平均 30 公演×4 名/公演×5 年間＝600 人増<br>○「鳴く虫と郷町」をはじめ、文化施設連携事業<br>→平均 60 人増加×5 施設×5 年間＝1,500 人増                                           | 2,100 人増  |
| イ：日本遺産連携事業（モデルルートの来訪・イベント実施等）<br>○日本遺産の令和 4 年事業計画から算出<br>→①（モデルルートの来訪 200 人）＋②（イベント 200 人）<br>＝400 人増                                                                               | 400 人増    |
| ウ：体験型周遊イベント事業（中心市街地内の文化施設や商店街等を巡る体験型イベント実施）<br>○10,400 人（参加人数）×3 施設（1 回のイベントで 3 施設を訪問する設定）÷5 年間＝平均 6,240 人増<br>※参加人数 10,400 人：近隣市で実施の同イベントの参加人数から、令和 4 年度は 2,000 人、以降 100 人ずつ増加する想定 | 6,240 人増  |
| エ：図書館交流事業（図書館での交流事業）<br>○交流イベント 200 回／年×平均 2 人増／回<br>＝年間 400 人増加×5 年＝2,000 人増<br>※交流イベント回数 200 回：新型コロナウイルス感染拡大前の実績                                                                  | 2,000 人増  |
| 合計（①＋②）                                                                                                                                                                             | 51,240 人増 |



## 目標指標② 中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口（4 エリア合計）

前計画では、「2 軸における歩行者・自転車通行量(休日 5 ポイントの合計)」を目標指標とし、毎年 10 月第 2 週又は第 3 週の平日・休日に調査・集計してきた。

本計画では、中心市街地の更なる回遊性向上と恒常的な賑わい創出のために取り組む各種事業が、どれだけ中心市街地全体に影響を与えているのか(効果を及ぼしたのか)を測るため、令和 3 年度に本市が導入した、ヤフー株式会社が保有する検索や位置情報データなどのビックデータが分析できるツール「DS.INSIGHT」を活用して得られた、「中心市街地 4 エリア※<sup>1</sup>における 1 日あたりの流動人口（4 エリア合計）※<sup>2</sup>」を目標指標として設定する。

※1 「DS.INSIGHT」で設定可能な最小 125m 四方のメッシュを組み合わせて、本計画の計画区域を超えない範囲で形成した「伊丹」、「宮ノ前」、「中央」、「西台」の 4 エリア。

※2 一定時間(2 分以上)滞在する、中心市街地 4 エリアにおける住民と来訪者の延べ人数。

| 目標指標                                 | 基準値                                      | 目標値                            |
|--------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------|
| 中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口（4 エリア合計） | 168,064 人<br>(R1 年 10 月～12 月の 1 日あたり平均値) | 167,814 人<br>(R8 年の 1 日あたり平均値) |
|                                      | 最新値                                      |                                |
|                                      | 102,067 人<br>(R3 年 4 月～11 月の 1 日あたり平均値)  |                                |
|                                      | 事業を実施しなかった場合の推計値                         |                                |
|                                      | 横ばい状態を想定しているため、最新値と同数値                   |                                |

事業効果の発現により、最新値から 65,747 人 (約 64.4%) 増

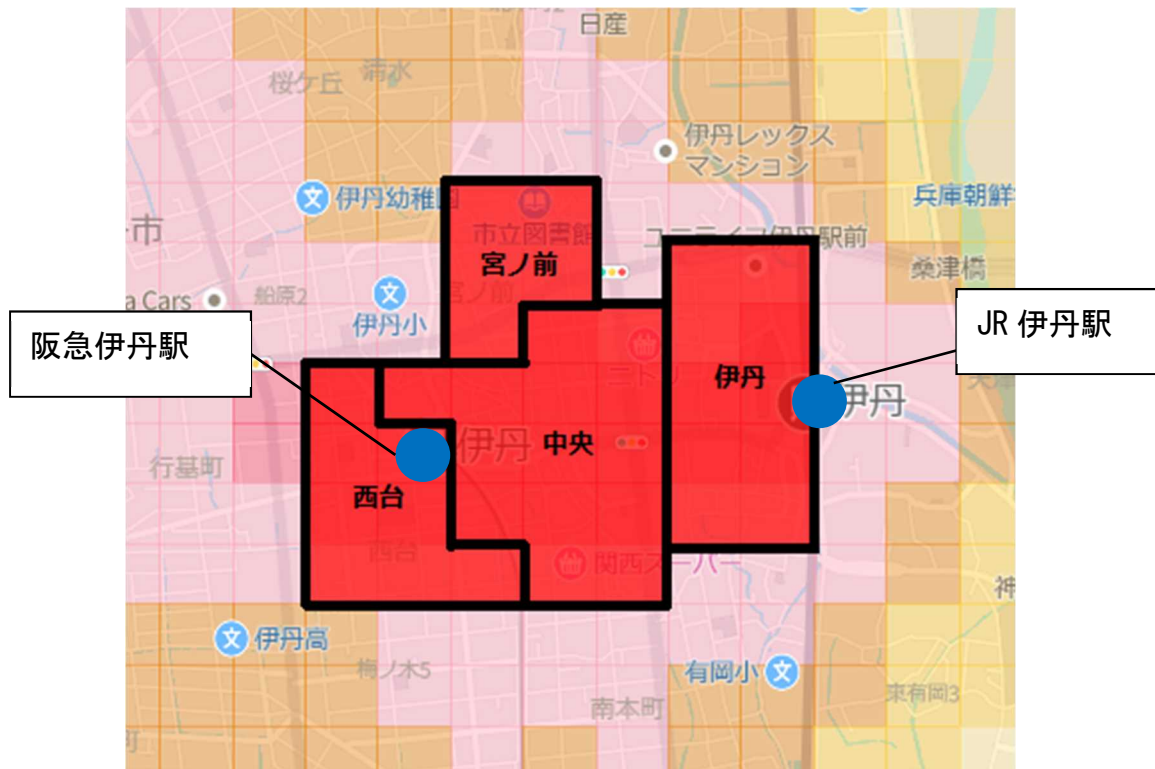
### ＜基準値・最新値の考え方＞

「DS.INSIGHT」で得られるデータは、Yahoo! JAPAN アプリを利用したユーザーの位置情報や属性を、総務省の住民基本台帳など用い拡大推計し、Yahoo! JAPAN が偏りを補正したデータとなっている。

令和 3 年 12 月時点において「DS.INSIGHT」で遡って検索が可能な期間は、令和元年（2019 年）10 月までとなっていることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない「令和元年 10 月から 12 月の 1 日あたり平均値」を基準値として設定する。

また、最新値として「令和 3 年 4 月から 11 月までの 1 日あたり平均値」を測ると、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値から約 40% の減となっていることから、この最新値を基準値近くまで回復させることを目標として、本計画に位置づける事業を実施する。

(図) 中心市街地 4 エリア



c Mapbox c OpenStreetMap c 2021 ZENRIN CO.LTD. (Z19LE 第 1533 号) c Yahoo Japan

## 1) 具体的な目標値設定の考え方

本計画においては、前計画で実施してきた「伊丹まちなかバル」や「イタミ朝マルシェ」などのソフト事業を、子育て世代の客層も取り入れる等により内容を充実させながら実施していく。また、これまで多くのイベントなどソフト事業が行われてきた「三軒寺前広場」を更なる使いやすさ向上、活用促進を図る「三軒寺前広場活用事業」や「市立伊丹ミュージアム連携事業」、「体験型周遊イベント事業」などを実施することにより、新たな来街者の誘客と中心市街地全体の回遊行動を促進することで、最新値から基準値近くまで回復させることを目標とする。

(表 1) 中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたり流動人口 (平均値) の推移

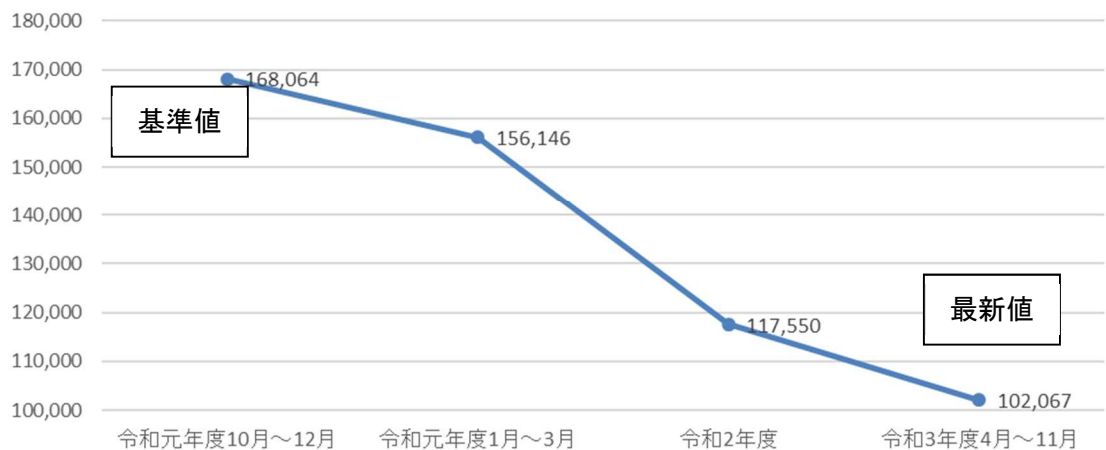
単位：人

| 年度      | 月         | エリア別 1 日あたり流動人口 (平均値) |        |        |        | 4 エリア合計 |
|---------|-----------|-----------------------|--------|--------|--------|---------|
| 令和元年度   | 10 月～12 月 | 伊丹                    | 宮ノ前    | 中央     | 西台     | (基準値)   |
|         |           | 44,170                | 27,554 | 56,136 | 40,204 | 168,064 |
|         | 1 月～3 月   | 伊丹                    | 宮ノ前    | 中央     | 西台     | (参考値)   |
|         |           | 40,420                | 23,220 | 53,333 | 39,173 | 156,146 |
| 令和 2 年度 | 4 月～3 月   | 伊丹                    | 宮ノ前    | 中央     | 西台     | (参考値)   |



|         |          |        |        |        |        |         |
|---------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|
|         |          | 29,842 | 17,424 | 40,426 | 29,858 | 117,550 |
| 令和 3 年度 | 4 月～11 月 | 伊丹     | 宮ノ前    | 中央     | 西台     | (最新値)   |
|         |          | 25,681 | 15,289 | 34,684 | 26,413 | 102,067 |

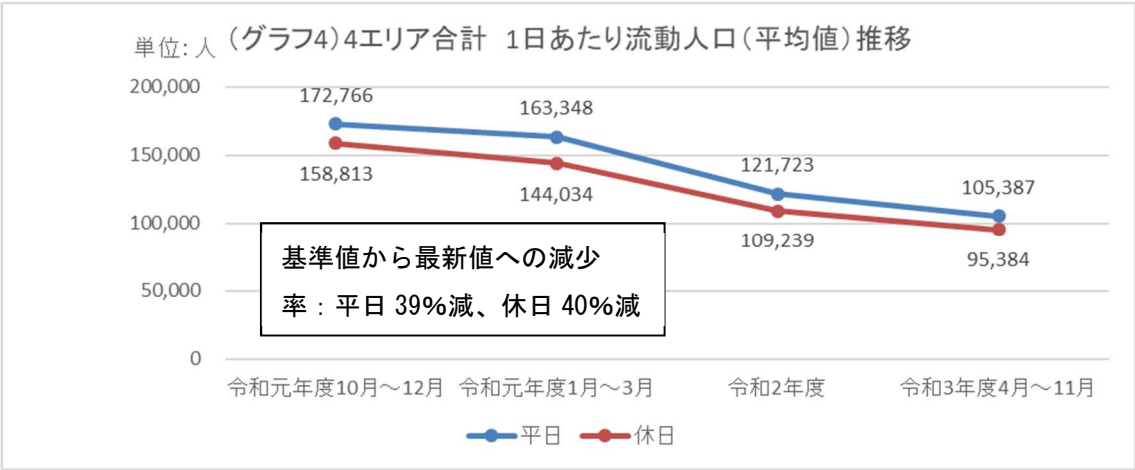
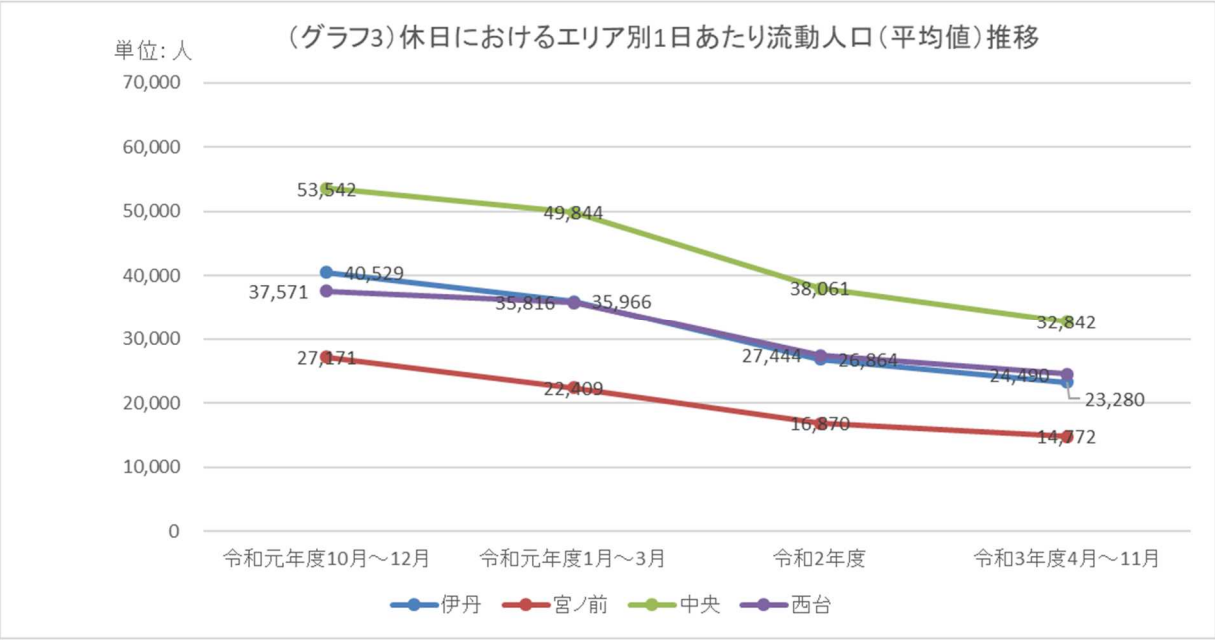
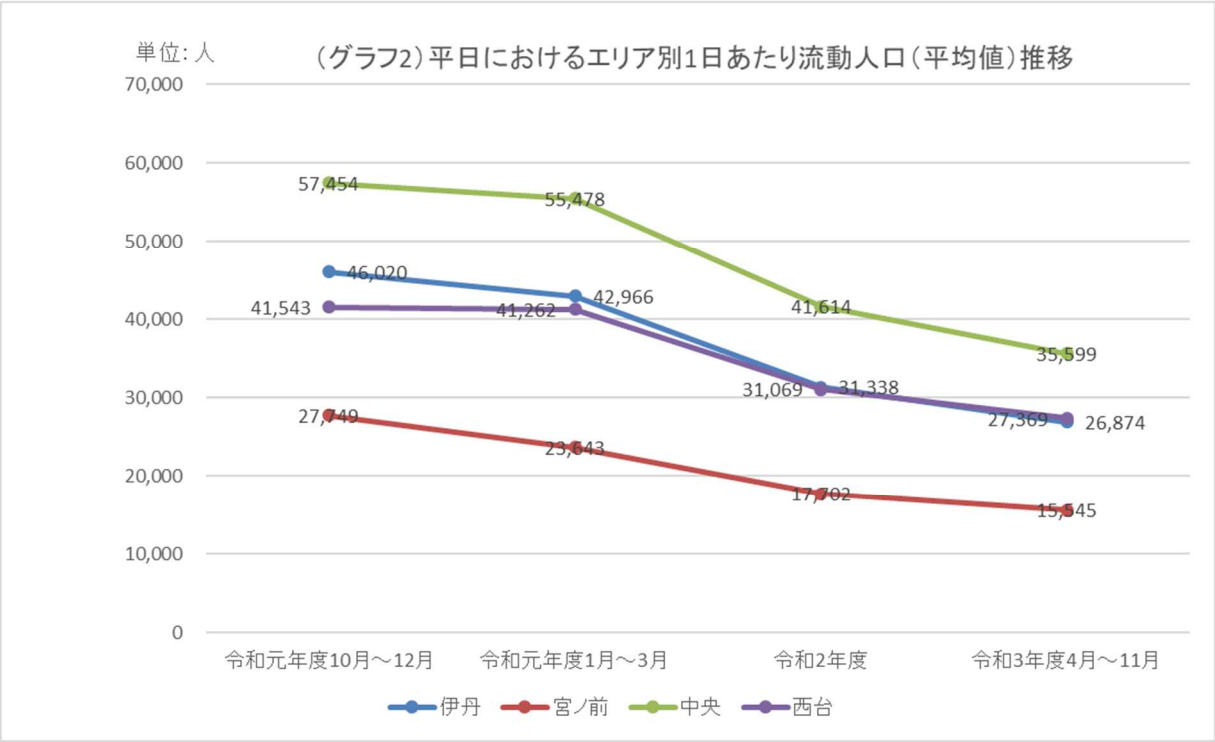
単位: 人 (グラフ1) 中心市街地における1日あたり流動人口(平均値・4エリア合計)の推移

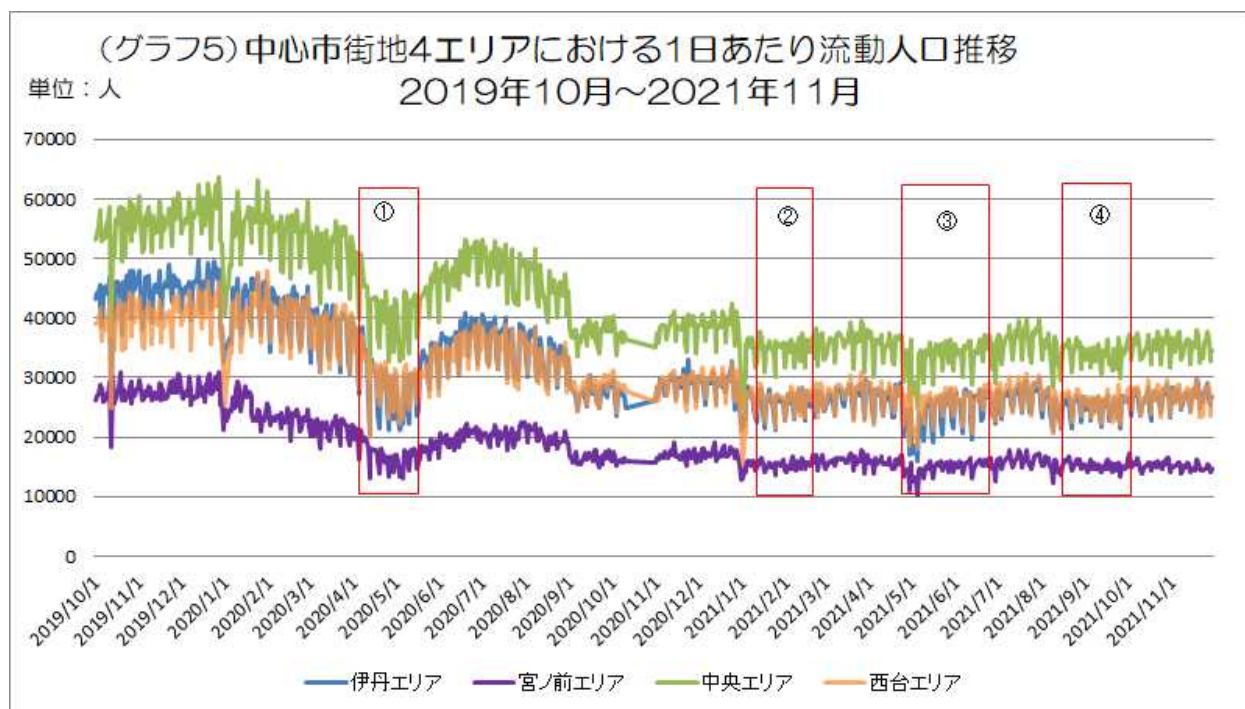


(表 2) 中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたり流動人口 (平均値) の推移 平日・休日別

単位: 人

| 年度      | 月             | 平日/<br>休日 | エリア別 1 日あたり流動人口(平均値) |        |        |        | 4 エリア合計 |
|---------|---------------|-----------|----------------------|--------|--------|--------|---------|
|         |               |           | 伊丹                   | 宮ノ前    | 中央     | 西台     |         |
| 令和元年度   | 10 月～<br>12 月 | 平日        | 46,020               | 27,749 | 57,454 | 41,543 | 172,766 |
|         |               | 休日        | 40,529               | 27,171 | 53,542 | 37,571 | 158,813 |
|         | 1 月～<br>3 月   | 平日        | 42,966               | 23,643 | 55,478 | 41,262 | 163,348 |
|         |               | 休日        | 35,966               | 22,409 | 49,844 | 35,816 | 144,034 |
| 令和 2 年度 | 4 月～<br>3 月   | 平日        | 31,338               | 17,702 | 41,614 | 31,069 | 121,723 |
|         |               | 休日        | 26,864               | 16,870 | 38,061 | 27,444 | 109,239 |
| 令和 3 年度 | 4 月～<br>11 月  | 平日        | 26,874               | 15,545 | 35,599 | 27,369 | 105,387 |
|         |               | 休日        | 23,280               | 14,772 | 32,842 | 24,490 | 95,384  |





<緊急事態措置実施期間>

- ①令和2年4月7日～令和2年5月21日      ②令和3年1月14日～令和3年2月28日  
③令和3年4月25日～令和3年6月20日      ④令和3年8月20日～令和3年9月30日

<本データは、Yahoo! JAPAN が提供するアプリ上で位置情報の利用に許可されたデータを元に推計されたものである（2021年12月10日時点の推計）。個人を識別できるデータは含まれない。>

## 2) 事業による効果の算定

前計画における中心市街地の歩行者・自転車通行量については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度を除き、三軒寺前広場において「伊丹まちなかバル」や「イタミ朝マルシェ」、「伊丹郷町屋台村」などのソフト事業が数多く実施されてきたことが増加要因である。

本計画では、コロナ禍における三軒寺前広場でのイベント実施における利用者数に加え、令和4年4月にリニューアルオープンする「市立伊丹ミュージアム」における博物館機能の導入及びソフト事業の実施、令和2年6月に認定された日本遺産を活用したモデルコースの設定やイベントなどの事業の実施、さらにはウィズコロナに対応した新たな「体験型周遊イベント」を実施することにより、長期間継続して開催することで人の密集を回避しながら、恒常的な賑わいを創出することで、中心市街地全体へ効果を及ぼし、流動人口が増加するものとして目標値を算出している。

| 事業名・算定の考え方                           | 効果（R4～R8） |
|--------------------------------------|-----------|
| ①三軒寺前広場活用イベント事業を始めとした休日におけるイベント事業の効果 | 4,187人増   |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| <p>○ <math>(A+B+C) \div 48 \text{ 日} \times 1.5</math> (計画期間内の事業実施による伸長率を1.5倍と想定) = 4,187人</p> <p>A. <u>回遊イベント開催による流動人口の増加 30,600人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊丹まちなかバル 15,300人 <math>\times 2 \text{ 回} = 30,600 \text{ 人}</math><br/> 「DS.INSIGHT」による計測で、伊丹まちなかバル開催日(令和元年10月19日(土))における4エリアの流動人口: 175,900人に対し、同月の開催日以外の土曜日(令和元年10月5日、10月27日※10月12日は台風19号の影響が大きい為除外)における4エリアの流動人口(1日あたり平均): 160,600人であることから、回遊イベント開催による流動人口増加を15,300人(差分)と想定</li> </ul> <p>B. <u>イベントの1日開催による流動人口の増加 54,400人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊丹クリスマスマーケット(同規模のイベント含む) 3,400人 <math>\times 16 \text{ 回} = 54,400 \text{ 人}</math><br/> 同ツールによる計測で、伊丹クリスマスマーケット開催日(令和2年12月6日(日))における4エリアの流動人口: 104,600人、同月の開催日以外の日曜日(令和2年12月13日(日))における4エリアの流動人口: 101,200人であることから、イベントの1日開催による流動人口増加を3,400人(差分)と想定</li> </ul> <p>C. <u>イベントの半日開催による流動人口の増加 48,990人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イタミ朝マルシェ(同規模のイベント含む) 1,633人 <math>\times 30 \text{ 回} = 48,990 \text{ 人}</math><br/> 同ツールによる計測で、イタミ朝マルシェ開催日(令和3年7月18日(日))における4エリアの流動人口: 96,600人、同月の開催日以外の日曜日(7月4日、7月11日、7月25日)における4エリアの流動人口(1日あたり平均): 94,967人であることから、イベントの半日開催による流動人口増加を1,633人(差分)と想定</li> </ul> |         |
| <p>②日本遺産連携事業による休日におけるイベント事業の事業効果</p> <p>○ <math>(A+B) \div 6 \text{ 日} \times 1.5</math> (計画期間内の事業実施による伸長率を1.5倍と想定) = 3,333人</p> <p>①と同定義により、</p> <p>A. <u>イベントの1日開催による流動人口の増加 6,800人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記①-Bを適用し、イベント 3,400人 <math>\times 2 \text{ 回}</math></li> </ul> <p>B. <u>イベントの半日開催による流動人口の増加 6,532人</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記①-Cを適用し、講座、イベント 1,633人 <math>\times 4 \text{ 回}</math></li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 3,333人増 |
| <p>③体験型周遊イベント事業、文化施設連携事業を始めとした回遊性向上に向けた取組みの事業効果</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 4,287人増 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>○体験型周遊イベント事業、文化施設連携事業を始めとした回遊性向上に向けた取組みの事業効果 4,287 人</p> <p>分析ツールによる計測で、4 エリアにおける令和 3 年 4 月から 11 月の 1 日あたり平均流動人口：102,067 人×(1-0.16)<sup>※3</sup>×0.05 倍= 4,287 人</p> <p>※3 流動人口における居住者割合の算出根拠：4 エリアにおける令和 3 年 11 月（月間平均）時間単位別人口のデータを基に、時間単位の合計値（605,800 人）に対して、1 時台～5 時台の流動人口が 99,400 人となることから、その差である 16%を居住者の割合と想定する。</p>                                       |                  |
| <p>④市立伊丹ミュージアム連携事業：市立伊丹ミュージアムの開館・連携事業による効果</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>13,760 人増</p> |
| <p>○「市立伊丹ミュージアム」の開館等による「宮ノ前エリア」の増 13,760 人</p> <p>分析ツールによる計測で、「宮ノ前エリア」における令和 3 年 4 月から 11 月の 1 日あたり平均流動人口：15,289 人×0.9 倍<sup>※4</sup>=13,760 人</p> <p>※4 現図書館本館建設前の平成 23 年時点における「宮ノ前」地点の休日歩行者・自転車通行量調査の数値：2,814 人に対し、建設から 5 年目の平成 28 年時点の同数値：5,286 人であることから、新たな文化・社会教育施設が建設されたことによる人流の影響が約 1.9 倍であることを参考にしたもの</p>                                                   |                  |
| <p>⑤総合的な流動人口増の効果</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>40,180 人増</p> |
| <p>○(A+B)=40,180 人</p> <p>A.休日における流動人口の総合的な回復効果 10,712 人</p> <p>○4 エリアにおける令和 3 年度 4 月～11 月の休日の 1 日あたり流動人口：95,384 人×(1-0.16)<sup>※3</sup>×0.4（計画期間内の総合的な効果を 40%増と想定）×122 日÷365 日=10,712 人</p> <p>B.平日における流動人口の総合的な回復効果 29,468 人</p> <p>○4 エリアにおける令和 3 年度 4 月～11 月の平日の 1 日あたり流動人口：105,387 人×(1-0.16)<sup>※3</sup>×0.5（計画期間内の総合的な効果を 50%増と想定）×243 日÷365 日=29,468 人</p> |                  |
| <p>①+②+③+④+⑤</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>65,747 人増</p> |

#### ＜「DS.INSIGHT」を活用して得られたデータの活用方法＞

本計画において活用する「DS.INSIGHT」には、「People」と「Place」の2種類の分析ツールがあり、目標指標に設定する流動人口などの指定エリアにおける人口推移をはじめ、性別年代割合などの確認、比較では、主に「Place」を活用する。

この「Place」には、指定したエリア同士、または同一エリアでの別期間における人口推移（日単位、時間単位）の比較をはじめ、計測日の翌日にはデータ取得も出来るため、各事業の効果測定や計画の達成状況のフォローアップをリアルタイムで行うことも可能

であり、独自で実施してきた利用者・参加者数やアンケート調査結果などの既存データと組み合わせることにより、要因分析等も即座に実施出来るなど、今後の対策に繋げるといったような、PDCA サイクルの回転を速めることも可能である。

また、「People」は、Yahoo! JAPAN の検索データを元に、生活者の興味関心を可視化するサービスであり、特定キーワード検索者が他に検索したことも確認できるため、イベントなどのソフト事業をはじめとするターゲット属性のニーズに合わせた企画や訴求等にも役立てるとともに、性別や年代別の結果もあわせながら、本計画で取り組む「エリアマネジメント促進事業」や空き店舗対策事業にも効果を発揮させていきたい。

流動人口の数値における出典：ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT



## (2)目標 2「点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)」実現に向けた指標の考え方

### 目標指標③ 中心市街地における 1 階空き店舗数

前計画では「中心市街地空き店舗数」を目標指標としていたが、住居が一体となった空き店舗や「昇降設備がなく、建物自体の老朽化が著しい、また前面道路が狭隘等で立地状況が好ましくない物件」についても空き店舗としてカウントしており、主要な空き店舗対策事業の効果が数値として可視化されにくい状況となっている。

本計画では、これまでの空き店舗調査の結果に基づき、約半数を占める「1 階の空き店舗」への対策を促進することによって、店舗の連続性が生まれ、魅力的な商業空間を創出させていくことから、「中心市街地における 1 階空き店舗数」を目標指標として設定する。

また、近年の「中心市街地における 1 階空き店舗数」の推移をみると、感染症の影響が大きいものと考えられることから、基準値を「令和 2 年度数値」とする。

なお、計画最終年度の令和 8 年度における推計値については、基準値である令和 2 年度数値に「H28～R2 で空き店舗出店促進事業の賃料補助により解消された 1 階空き店舗数」11 店舗を勘案し、65 店舗＋11 店舗＝76 店舗を想定している。



#### 1)具体的な目標値設定の考え方

創業機会を創出する事業として「空き店舗情報バンク・マッチング事業」を実施し、2 期計画で実施した「空き店舗出店促進事業」に代わる、創業者数の増加を促し、経済活性化と雇用創出を図ることを目的とした「創業支援事業」をはじめ、不動産事業者、商工会議所、商業者、住民、地権者等と協働し、空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで各エリアの価値向上に繋げる「エリアマネジメント促進事業」、「商店街等活性化事業」など、主にソフト事業を中心とした事業を展開する。

#### 【空き店舗数の推移】

(単位：店)

|          |       | H28 | H29 | H30 | R1  | R2  | 平均値   |
|----------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 空き店舗数    | 宮ノ前地区 | 7   | 11  | 10  | 7   | 7   | 8.4   |
|          | 伊丹地区  | 9   | 14  | 11  | 11  | 12  | 11.4  |
|          | 中央地区  | 69  | 71  | 58  | 62  | 70  | 66.0  |
|          | 西台地区  | 31  | 37  | 38  | 46  | 40  | 38.4  |
|          | 計     | 116 | 133 | 117 | 126 | 129 | 124.2 |
| 1 階空き店舗数 | 宮ノ前地区 | 7   | 10  | 10  | 7   | 7   | 8.2   |
|          | 伊丹地区  | 9   | 12  | 10  | 10  | 10  | 10.2  |
|          | 中央地区  | 36  | 43  | 33  | 32  | 33  | 35.4  |
|          | 西台地区  | 18  | 18  | 19  | 14  | 15  | 16.8  |
|          | 計     | 70  | 83  | 72  | 63  | 65  | 70.6  |

## 2)事業による効果の算定

過去5年間の中心市街地における1階空き店舗については、平成28年の70店舗から、平成29年に増加しているもの令和2年にかけて65店舗にまで減少している。

これは、前計画において実施した空き店舗出店促進事業の効果によるものが含まれるため、事業効果の算出には、空き店舗出店促進事業により1階部分の空き店舗解消につながった11店舗を勘案する。

| 事業名・算定の考え方                                                                               | 効果 (R4～R8) |
|------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| ①創業支援事業：講座受講した新規創業者への賃借料一部補助<br>○中心市街地内の1階空き店舗の解消を15件と見込む                                | 15件        |
| ②エリアマネジメント促進事業：不動産事業者、商工会議所、住民、<br>商業者組織、地権者等との協働による遊休不動産の活用<br>○中心市街地内の1階空き店舗の解消を2件と見込む | 2件         |
| ③空き店舗情報バンク・マッチング事業：空き店舗情報と支援制度<br>の一元的公開、店舗ツアーの実施<br>○中心市街地内の1階空き店舗の解消を5件と見込む            | 5件         |
| A：合計（①＋②＋③）                                                                              | 22件        |

|                                                                                                      |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| B：平成28年～令和2年で空き店舗出店促進事業の賃料補助により<br>解消された1階空き店舗数<br>○空き店舗出店促進事業を実施しなかった場合に自然増加する<br>1階空き店舗数を11店舗増と見込む | 11件 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|

|                      |                            |
|----------------------|----------------------------|
| 中心市街地における<br>1階空き店舗数 | 65件【基準値】－22件【A】＋11件【B】＝54件 |
|----------------------|----------------------------|

### (3)目標 3「あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)」実現に向けた指標の考え方

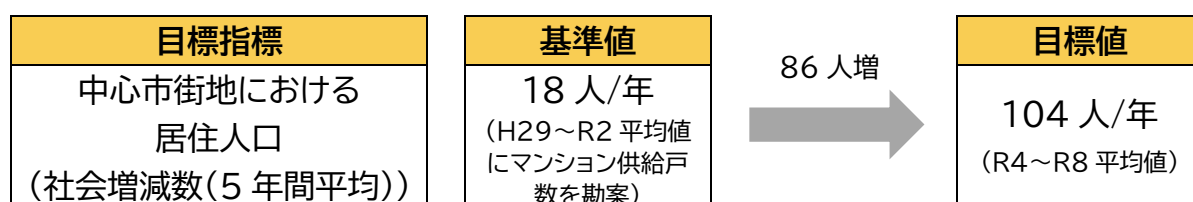
#### 目標指標④ 中心市街地における居住人口（社会増減数）

本計画では、前計画で進めてきた「安全・安心な都市空間の整備」を継続させ、さらに各施策において「子育て世代」のニーズを満たす事業を強化することで、定住人口の増加を目指す

今後の全国的な少子高齢化による自然減の増加は本市でも同様であることを鑑み、まちなか居住の推進による事業効果を数値として捉えやすくするため「中心市街地における居住人口（社会増減数）」を目標指標として設定する。

また、近年の「中心市街地における居住人口（社会増減数）」の推移をみると、感染症の影響が大きいものと考えられることから、基準値を令和2年度数値を含む「H29～R2 平均値にマンション供給戸数を勘案した数値」とする。

なお、計画最終年度の令和8年度における推計値（R4～R8 平均値）については、基準値から横ばいとなることを見込み、基準値と同値を想定している。



#### 1)具体的な目標値設定の考え方

前計画で実施した「シティプロモーション事業」をはじめ、「空き家活用支援事業」「民間賃貸住宅ストック活用事業」をさらに進め、新たに中心市街地へ保育所を誘致・開設する「保育所誘致・開設事業」を実施し、さらには中心市街地内の子育て世代を支援する「地域子育て支援拠点事業」など、ハード・ソフト両面からの事業を展開する。

#### 【中心市街地における社会増減人口の推移】

|                      |           | H29    | H30    | R1     | R2     | 4 力年平均     |
|----------------------|-----------|--------|--------|--------|--------|------------|
| 実績値                  | 転入(a)     | 615 人  | 563 人  | 688 人  | 669 人  | 633.8 人/年  |
|                      | 転出        | -490 人 | -625 人 | -478 人 | -458 人 | -512.8 人/年 |
|                      | 社会増減      | 125 人  | -62 人  | 210 人  | 211 人  | 121.0 人/年  |
| 影響を勘案した値<br>マンション開発の | 転入(a-b)   | 523 人  | 563 人  | 587 人  | 452 人  | 531.1 人/年  |
|                      | マンション開発戸数 | 39 戸   | 0 戸    | 43 戸   | 92 戸   | 43.5 戸/年   |
|                      | 想定人口(b)※  | 92 人   | 0 人    | 101 人  | 217 人  | 102.7 人/年  |
|                      | 転出(a)     | -490 人 | -625 人 | -478 人 | -458 人 | -512.8 人/年 |
|                      | 社会増減(a)   | 33 人   | -62 人  | 109 人  | -6 人   | 18.3 人/年   |

※：1 戸当たり 2.36 人/世帯（伊丹市平均世帯人員）として算出

## 2)事業による効果の算定

前計画期間における中心市街地の居住人口は、5 棟の民間分譲マンションが建設され、2 カ所の保育園開設、子育て世帯向けの魅力発信等のシティプロモーション、三世代同居・近居促進を図るなど、中心市街地の居住環境の向上を進めた結果、増加した。

今後、中心市街地内におけるまとまった民間分譲マンション建設用地も限られるなかで、西台 3 丁目に建設の民間分譲マンション供給が進められている。さらには、若者や子育て世代に対する居住環境の付加価値を向上させるため、新たに 2 カ所の保育所誘致・建設や子育て世代への効果的な情報発信を行うシティプロモーション事業、中心市街地に開設された地域子育て支援拠点における事業実施により、居住人口が増加するものとして目標値を算出している。

| 事業名・算定の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 効果 (R4～R8)    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| <b>①西台 3 丁目民間マンション建設事業：計画期間内に供給される民間マンション供給による人口増加</b><br>○民間マンション供給による増加人口→83 戸×2.36 人（伊丹市平均世帯人員（令和 2 年））÷196 人                                                                                                                                                                                                                   | 196 人増        |
| <b>②2 カ所の保育所誘致・開設事業：計画期間に整備される保育園による人口増加</b><br>○保育園整備による人口増加<br>→120 人（施設定員）×2.36 人（伊丹市平均世帯人員（令和 2 年））×29.9%※1÷85 人<br>※1：住まいにおいて保育所・幼稚園が充実していることを重視される方の割合（居住地域に関する意識調査：国土交通省 H22.6）                                                                                                                                             | 85 人増         |
| <b>③地域子育て支援拠点事業、公衆トイレ改修事業、シティプロモーション事業等：計画期間内に実施する住環境向上に資する事業による人口増加</b><br>○住環境向上に資する事業による増加人口<br>→2,051 人※2×58.2%※3×5/4※4×0.1※5÷149 人<br>※2：平成 29 年から令和 2 年までの 4 カ年の中心市街地の転出者数合計<br>※3：平成 29 年から令和 2 年までの 4 カ年の全市の 20～39 歳転出者の割合<br>※4：5 カ年分への補正<br>※5：「伊丹市民意識調査（平成 31 年）」における、定住意向において「市外へ移りたい（4.0%）」と「どちらでもない（5.4%）」を解消することを想定 | 149 人増        |
| <b>合計（①+②+③）</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <b>430 人増</b> |

|                         |                                         |
|-------------------------|-----------------------------------------|
| 中心市街地における<br>居住人口(社会増減) | 18.3 人/年【基準値】+86 人/年(430 人/5 年)=104 人/年 |
|-------------------------|-----------------------------------------|

#### [4] フォローアップの時期及び方法

それぞれの目標指標については、以下の方法で数値を把握する。数値目標の達成状況については、毎年度末にフォローアップし、伊丹市中心市街地活性化協議会に報告するとともに、市ホームページで公表する。

##### 【フォローアップの方法】

事業の進捗状況の評価から、実績値に対する検証を行うが、各事業の効果以外の要素が認められる場合は別に分析する。また、目標値の設定に用いた各事業における計測値を元に、目標設定における計算式により各事業の効果を算出し、その合計を事業による計算上の効果とすることで、実績値と比較検証する。

##### 【フォローアップに基づく対応】

毎年、各事業の進捗及び目標値の達成状況を検証し、検証結果を中心市街地活性化協議会に対し適宜報告を行うとともに、必要に応じて、事業の追加や事業内容の変更などの目標達成に向けた改善措置を講じる。

#### 目標 1 歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町（まち）

##### ①中心市街地における文化施設等(5 施設)利用者数

##### 【フォローアップの時期】

- ・毎年度末

##### 【事業ごとの計測値】

| 事業名               | 計測値            |
|-------------------|----------------|
| ア) 市立伊丹ミュージアム連携事業 | 年間利用者数（当該年度累計） |
| イ) 文化施設連携事業       | 年間参加者数（当該年度累計） |
| ウ) 日本遺産連携事業       | 年間参加者数（当該年度累計） |
| エ) 体験型周遊イベント事業    | 年間参加者数（当該年度累計） |
| オ) 図書館交流事業        | 年間参加者数（当該年度累計） |

##### ②中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口(4 エリア合計)

##### 【フォローアップの時期】

- ・毎年度末

##### 【事業ごとの計測値】

| 事業名                   | 計測値                |
|-----------------------|--------------------|
| ア) 三軒寺前広場活用事業         | 年間イベント参加者数（当該年度累計） |
| イ) 市立伊丹ミュージアム連携事業     | 年間利用者数（当該年度累計）     |
| ウ) 日本遺産連携事業           | 年間参加者数（当該年度累計）     |
| エ) 公共交通を活用した中心市街地誘客事業 | 年間利用者数（当該年度累計）     |

|             |                                     |
|-------------|-------------------------------------|
| <b>目標 2</b> | <b>点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町（まち）</b> |
|-------------|-------------------------------------|

①中心市街地における 1 階空き店舗数

【フォローアップの時期】

・毎年 11 月以降に調査・集計

【事業ごとの計測値】

| 事業名                  | 計測値                            |
|----------------------|--------------------------------|
| ア) 創業支援事業            | 事業を活用して解消された 1 階空き店舗件数（当該年度累計） |
| イ) エリアマネジメント促進事業     | 事業を活用して解消された 1 階空き店舗件数（当該年度累計） |
| ウ) 空き店舗情報・バンクマッチング事業 | 事業を活用して解消された 1 階空き店舗件数（当該年度累計） |

※上記ア)～ウ)の各事業について、事業目標数に対する進捗率、空き店舗総数もあわせて評価する。

|             |                                   |
|-------------|-----------------------------------|
| <b>目標 3</b> | <b>あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町（まち）</b> |
|-------------|-----------------------------------|

①中心市街地の居住人口(社会増減数)

【フォローアップの時期】

・住民基本台帳データから毎年度の中心市街地内の社会増減数を調査・集計（中心市街地外から中市街地内への市内転居を含む）

・補完的に、国勢調査推計人口 10 月データにて中心市街地内の人口を調査・集計

【事業ごとの計測値】

| 事業名                             | 計測値                         |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ア) 西台 3 丁目分譲マンション建設事業           | 入居率、推計居住人数                  |
| イ) (仮称)トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業) | 定員数                         |
| ウ) (仮称)伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)    | 定員数                         |
| エ) 公衆トイレ改修事業                    | 工事完了後の使用人数推計値(当該年度累計)       |
| オ) 地域子育て支援拠点事業                  | 年間利用者数（当該年度累計）              |
| カ) シティプロモーション事業                 | パンフレット配布数／サイトアクセス数等（当該年度累計） |

※令和 5 年度に実施予定の「伊丹市民意識調査」において定住意向の回答割合を調査・集計